

西山地区森林整備ボランティア

12月4日（日）、遊佐町藤崎地内民有林のクロマツ林で森林整備ボランティア活動が開催されました。当日は冬型の天候で小雨と強風が吹き荒れる寒い日でありましたが、時折晴れ間や虹も見られるめまぐるしい天候となりました。作業地は民有林ではありますが、年内最後となる「出羽庄内公益の森づくり事業」活動でもあり、当センターからも参加しました。

この活動は、遊佐町民の生活や産業を守るクロマツ林の大切さを再認識するとともに、地域住民の力で保存していくことを目的として、平成9年度から12月第1日曜日を森林ボランティアの日と定めて森林整備活動を行っており、今回で15回目になります。

今回は、山形県庄内総合支庁、遊佐町、西遊佐小学校・稲川小学校の四年生と両校の先生及び父兄、砂丘地砂防林環境整備推進協議会会員等の地域の皆さん、朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターからも2名、総勢130名が参加しました。

まず、遊佐町長、庄内総合支庁森林整備課森づくり推進室長、砂丘地砂防林環境整備推進協議会会長から挨拶があり、事務局の担当者より枝打ち作業の仕方について説明の後、作業が開始されました。

西遊佐・稲川小学校の四年生の皆さんは、防寒衣に身を包み、ヘルメットをかぶり、手に鋸を持って作業にかかりました。最初はクロマツの枝を切り落とすのに苦戦していましたが、作業に慣れてくるにつれて早く作業ができるようになりました。また、生徒の父兄の皆さんや先生方も子供達に負けずと作業に勢を出していました。

大勢のボランティア参加の皆さんが頑張った結果、予定時間よりも早く作業が完了し、下枝が繁茂していたクロマツ林は遠くから見てもスッキリとし、見違えるほど綺麗になりました。

最後に、整備されたクロマツ林を背にして記念撮影、終了式が行われ、西遊佐・稲川小学校の生徒数名から、「クロマツ林の枝を落として綺麗になって良かった」、「太い広葉樹を鋸で伐って年輪を数えることができて良かった」などの感想が述べられました。

この場所には、近い将来、高速道路のトンネル（ボックスカルバート方式）が通る予定になっているそうです。工事が完了したら、またみんなでクロマツの苗を植樹することを誓い合い作業が終了しました。

